

## 平成 30 年度中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業



模擬授業・全員で銃剣道の形を学習

平成 30 年度中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業（主催：日本武道館、全日本銃剣道連盟、日本武道協議会、後援：スポーツ庁）は 12 月 7～9 日の 3 日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで行われた。

本事業は平成 24 年度から完全実施された武道授業の充実へ向け、銃剣道の特性を踏まえた指導計画、指導内容、指導法、評価等について研究協議することを目的として実施され、前回に引き続き大多喜町立大多喜中学校の協力を得て模擬授業が行われた。



### ■1 日目（12 月 7 日）

開講式では、鈴木健全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事が「本事業は今年で 9 年目を迎え、着々と成果を上げてきております。27 年度には中学校授業で銃剣道が初めて採用され、29 年度には日武協の『中学校武道必修化指導書』が完成し、全中学校に配布されました。この指導書を読んだ方々からは高い評価をいただいています。また、実際に銃剣道を採用した中学校でも、安全に授業が実施できています。本事業で、銃剣道の良いところをさらに磨き上げて、安全で楽しい、充実した銃剣道授業が実施できるよう、研究協議を進めていただきたいと思います」と挨拶。次に、

三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が「中学校武道必修化の完全実施から 7 年が過ぎ、次期学習指導要領に武道 9 種目が並列明記することが決まりました。それを受けて、来年度のスポーツ庁の事業・予算に、外部指導者を活用した複数種目のモデル実践事業を行うことが盛り込まれました。これは、武道 9 種目が中学校武道必修化で実施が可能であるということを実証するための先行的な事業・予算です。各地域を代表する先生方には、先陣を切って銃剣道のすばらしさを各地で実践いただくとともに、各都道府県に周知徹底する良い機会として、関係者が連携して一体となって取り組んでいただきたいと思います。銃剣道を通じて中学生の健全な発達が図られ、安全で楽しく効果の上がる銃剣道授業が実践できるよう、研究協議を期待しています」と挨拶を述べた。

開講式終了後、『中学校武道必修化指導書』付属の銃剣道 DVD を視聴した後、2 日目に実施予定の模擬授業に向けて、内容の協議と実技の指導方法の検討・確認が行われた。

### ■2 日目（12 月 8 日）

模擬授業は、大多喜中学校の 1～3 年生 22 名の協力を得て、同校剣道場で行われた。今回の授業想定は、全員が銃剣道未経験の 1 年生を対象に、銃剣道

が専門ではない教諭による全5時間の授業という設定で実施された。

1時間目の導入部分は田村聖一研究者が担当し、その後の授業は菊池聡研究者がT1を、千葉隆研究者がT2を担当して行われた。田村研究者による銃剣道の歴史では、フランス革命の絵画や江戸時代の槍術の画を示し、子供たちに親しみやすいよう幕末が舞台の漫画などにも触れながら、銃剣道の起源を紹介。そして、スポーツとしても行われるようになった銃剣道の現在までの歴史を説明。「学校の授業では、相手を認める武道として発展してきた銃剣道を学びます」とまとめた。視覚的な資料や身近な話題を交えた銃剣道の歴史解説は、子供たちにとってより理解しやすいと、他の研究者から参考になったという声があった。

続いて、実技指導へと移った。T1の菊池研究者は、銃剣道授業の目標を「楽しく、美しく、格好よく」と設定。特に「格好よく」は、突く際の「やー」の発声を心がけるよう指導し、全授業を通じて生徒へ声掛けを行った。

午前中は、全5時間中の1時間目と2時間目の授業内容を実践。まずは立礼・座礼と立ち方・座り方、足さばきの送り足の指導が行われた。足さばきの指導では、紙片を両足で踏ませて行うことで、紙一重を実感させながら、つま先を床から離さずにすり足で移動する感覚を身に付けさせる方法が試された。



足さばきの指導

続いて、2時間目からは、T2の千葉研究者が加わった模擬授業が行われた。木銃の持ち方・扱い方から、「構え」「直れ」の一斉指導が行われ、続いて、基本の「直突」の指導に入った。まずは空間での突きから、新聞紙突き、そして、ボール突きへと段階的な指導が行われた。

午後は、3時間の授業を通して、銃剣道の形の一本目、二本目を学習した。5時間目の最後には、各学年別の班を代表して3組がみんなの前で演武を披露するまでに到達して、模擬授業を終了した。終了後、研修センターへ戻り、模擬授業の反省と振り返り、確認が行われた。



模擬授業の振り返り

### ◎アンケート結果

生徒へのアンケート結果として、22名中19名が「楽しかった」「面白かった」と回答し、面白かった内容として7名が「形」を挙げた。

反対に、苦しかった・つらかった内容として、主に1・2年生の8名が「ずっと木銃を持っていること」「木銃が重かった」と回答した。

印象に残ったこととして、5名が「大きな声」「発声」を挙げた。

### ■3日目（12月9日）

最終日は、研究者による学校現場報告や、スポーツ庁の新規事業である「外部指導者を活用した複数種目のモデル実践事業」に向けて、銃剣道が学校現場で採用されるにはどうすればよいか等について、活発な意見交換が行われた。

閉講式では、研究者を代表して滝沢研究者が講評を行い、全日程を終了した。



研究者と模擬授業協力者で集合写真